

福岡県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	60点	
問題構成	<p>大問4題。[一]説明的文章・[二]文学的文章・[三]古典・[四]作文。 ※「言語」に関する出題は、[一](2)に出題。 [一]は(1)説明的文章で12点配点であった。出典（『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』山極寿一）。記述式は2問で、本文で取り上げられた語や作品について、意味や意図を説明する問題が出題された。また、(2)では海外文学作品である出典（『モモ』ミヒヤエル・エンデ／大島かおり訳）を引用し、(1)の本文と関連させる問題や文法・語句・書写に関する問題が9点分出題された。 [二]は文学的文章の文章読解問題で12点配点であった。出典（『鐘の音』森絵都）。記述式は1字で同意語を答えさせるもの、15字以内で空欄補充させるもの、35字以内で心情表現を具体的に説明させるもの、同じく35字以内で主人公の行動における心情を説明させるものの計4問が出題された。 [三]は古典12点。出典（漢文の書き下し文：『莊子』）とその現代語訳を並べて出題。記述式は15字以内で主題を説明させるものが出題された。 [四]は作文15点。12行240字。「国語に関する世論調査」を資料とし、言葉や言葉の使い方をテーマに、複数のグラフから必要な情報を取り出し意見を述べさせるものであった。 記述式問題の字数が増え、平均点も大きく下がった。全体的に難化した年だったと言える。</p>			

	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)	令和2年度(2020)	平成31年度(2019)
問題量（A4で）	10ページ分	10ページ分	10ページ分	9ページ分	9ページ分
小問数	25問	27問	23問	23問	21問
論述問題の数	8問	8問	7問	7問	7問
論述問題配点	32点	31点	30点	29点	32点
受験者平均点	31点	36点	39点	38点	39点

【出題の傾向と対策】

① [一] (1)「空欄前後の言葉」と「全く同じ言葉」ではなく「同意語」や「言い換え」から「文脈」を捉える。

[一]問二 空欄[ア]に入る最も適当な語句を本文中から七字で探し、そのまま抜き出して書け。

本来、金は今ある可能性や価値を、劣化しない紙幣や硬貨に代えて、それを将来に担保する装置である。いわば.....装置だ。しかし、実はその持続性や普遍性は.....。

紙幣や硬貨の価値は、将来も担保されるとは限らないのに、[ア]があると思こんでいること。

↑空欄前の「紙幣や硬貨」・「価値」・「担保」という単語に注目しても答えを見つけることはできない。言い換えの「いわば」や指示語の「その」が指す内容を考えて答えるべき問題であった。（正答率66.9%）

② 指定語を使った記述は [一] (1)の問三のみであり、その他の記述では指定語がなくなった。

[一]問三 本文中に 人々の信頼 とあるが、書き手は「信頼」をどのようなものと捉えているか。二十字以上、二十五字以内でまとめて書け。ただし、時間、記憶という二つの語句を必ず使うこと。

↑指定語を「活用させても良い」という指定が今年度はなくなっていた。（正答率31.1%）

③ [二]心情を主人公に「共感」して考えるのではなく、文章の中からその心情を「探る」必要がある。

[二]問四 本文中に 罰当たりな錯覚 とあるが、具体的にはどのようなことか。（正答率12.4%）

問五 本文中に 漆にかぶれた肌のむず痒さを思い出し、血まみれになるまで掻きむしりたくなるのだ とあるが、ここから読み取れる潔の気持ちを.....（正答率7.8%）

↑どちらも生徒には馴染みの薄い「仏像修復」にまつわる「潔の内面」を本文から読み取る必要のある問題で、指定語もない上に「共感」しづらい話題であるため、難度は高く、正答率は非常に低かった。

④[三] 昨年同様、古文の歴史的仮名遣いに関する問題と、漢文の返り点に関する問題が同時に出题された。

[三]問一 【A】の ゆゑに を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。(正答率92.3%)

[三]問四 【A】の 吾は我が常与を失ひ、我、処る所無し という書き下し文の読み方になるように、解答欄の漢文の適当な箇所に、返り点を付けよ。(正答率61.6%)

↑歴史的仮名遣いも返り点も同時に出るのは2年連続。昨年は歴史的仮名遣いの正答率の方が低かったが、今年は易化している。逆に返り点の問題は文が長くなり、明確に難化しているといえる。

⑤[三] 古典の出题では【書き下し文】【現代語訳】【会話文】の3つの読み取りが必要である。近年3~4つの文章を読み取らせる問題が続いており、傾向として定着してきたといえる。

[三] 問五(1) [ア]、[イ]、[ウ]に入る語句として最も適当なものを、次の1~6からそれぞれ一つ選び、番号を書け。(正答率ア 73.7%、イ 49.6%、ウ 43.2%)

↑選択肢が6つであることや、「莊周」が「莊周」自身を「別の役割」で例え話に登場させていることなどが難度が高い原因と思われる。各場面における人物とその役割を正確に対比して読み取ることが必要。

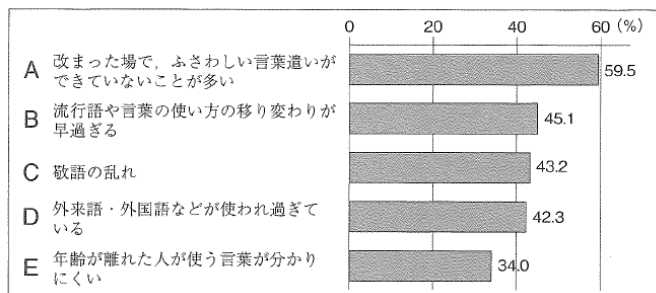
問五(2) [エ]に入る内容を、十字以上、十五字以内で考えて書け。(正答率11.9%)

↑空欄工を含む生徒の発言に「特に『後の千の金さらに益なし』を踏まえて考えると」という指定があるが、そこを見落として答えた生徒が多かったと思われる。細部まで読み込む力が必要。

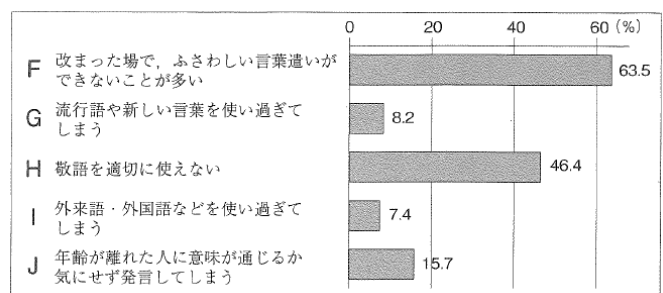
⑥[四] 「各資料の調査目的を正確に把握し、どのように比較し、どう意見を述べるのか」書き始める前に計画を立てることが必要。

条件2 第一段落には【資料】のⅡのA~Eの各項目から一つ、ⅣのF~Jの各項目から一つ選び(どれを選んでかまわない。)選んだ二項目を比較して分かることと、それについてあなたが考えたことを書くこと。

資料Ⅱ



資料Ⅳ



↑AとF、BとG、CとH、DとI、EとJの「項目名」は似ており、単純に2つのグラフを比較ができない。グラフの「数値」と、資料Ⅱは「社会全般」資料Ⅳは「自分自身」に関するグラフであるという前提から「後の意見」につながるよう比較をしていく必要がある。正答率が例年より下がっていることから、何を書いてよいか分からず「無回答」の生徒が増えたのではないかと予想される。(正答率67.8%)

解答

[四]

(例1) 私は、【資料】のAとFを比較し、どちらも割合が似ていることが分かった。改まった場でふさわしい言葉遣いができない問題は、個人の問題ではなく社会全体で考えるべき問題だから似ているのだと考える。

私は場の雰囲気合わせた言葉の使い方をすることが大切だと考える。普段雑談をしているときは敬語には厳しくない先輩から、チームの作戦会議の場で私が敬語を使わずに発言した時に怒られた経験があるからだ。楽しくするときと、真剣にするときで言葉を使い分け、より良い関係を人と築いていきたい。

(例2) 私は、【資料】のBとGを比較し、流行語や言葉の使い方の移り変わりを感ずる速さには個人差が大きいことが分かった。大人と子供で言葉の使い方に差が出るのはこのような感覚が原因なのかもしれないとも考えた。

言葉はなるべくみんながわかりやすいものを使うほうが良いと考える。友達がゲームの話をして彼の母に話した時に、ゲームの用語が通じずに、なかなか話の内容がわかってもらえなかったという話を聞いたからだ。人に何かを伝えるときは新しい珍しい言葉ではなく、わかりやすい言葉を選びたい。